

米軍横田基地に配備されている垂直離着陸輸送機C V22オスプレイの 飛行中止を求める意見書

米軍横田基地（東京都福生市など5市1町）の周辺で、横田基地所属の空軍特殊作戦機C V22オスプレイが機体後部のランプ（斜路）付近に備えつけられた機関銃の銃口を住宅地に向けながら飛行するケースが7月に入って急増している。

多くの学校、保育園、病院が存在する住宅地を戦場とみなし、標的にした訓練を行っている可能性がある。

羽村平和委員会の調査によると、住宅地に銃口を向けて飛行するC V22が、7月3日から同月11日までの9日間で、少なくとも5日間・延べ9機が確認された。内訳は7月3日に1機、8、9、10、11日に各2機である。初めて確認された18年6月29日から19年6月27日までの約1年間で、29日間・延べ32機だったのに比べて頻度が高まっている。7月1日に横田基地でC V22の部隊を特殊作戦群の分遣隊から飛行隊に再編し、整備部隊を発足。その直後から訓練を拡大させている。

米空軍によると、搭載されているのはM240またはM2重機関銃である。機関銃のそばに立つ米兵の姿が数回目撃されている。

横田基地の滑走路中心から3キロメートルの範囲には、小・中学校や高校が30以上ある。人々が暮らす市街地を戦闘機が飛ぶこと自体おかしい。ましてや銃口を市民に向けることはあってはならない。米軍は「標準の飛行だ」、「弾薬を装備しておらず安全に問題はない」と説明している。

特殊部隊を輸送するC V22は対地攻撃の能力を備えており、それを想定した訓練をしていることになる。日本政府はいまだ何の抗議も申し入れもしていない。

よって、本市議会は、政府に対し、市民を標的とした訓練を行う横田基地に配備されている垂直離着陸輸送機C V22オスプレイの飛行中止を強く求める。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和元年9月30日

三鷹市議会議長 石 井 良 司